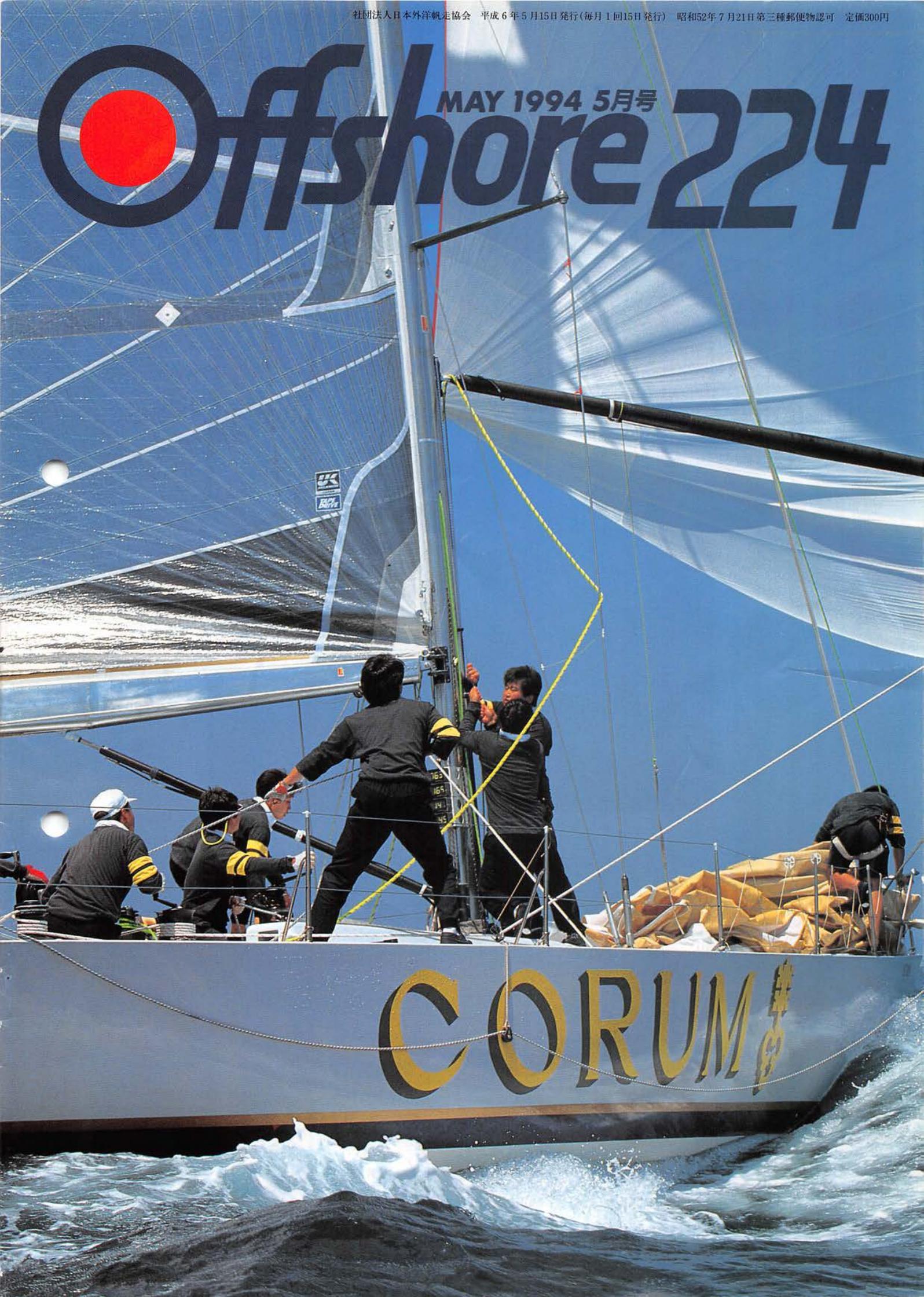
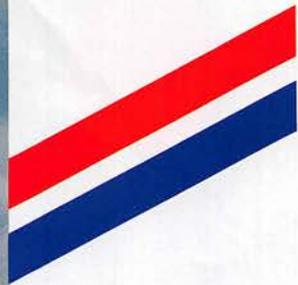
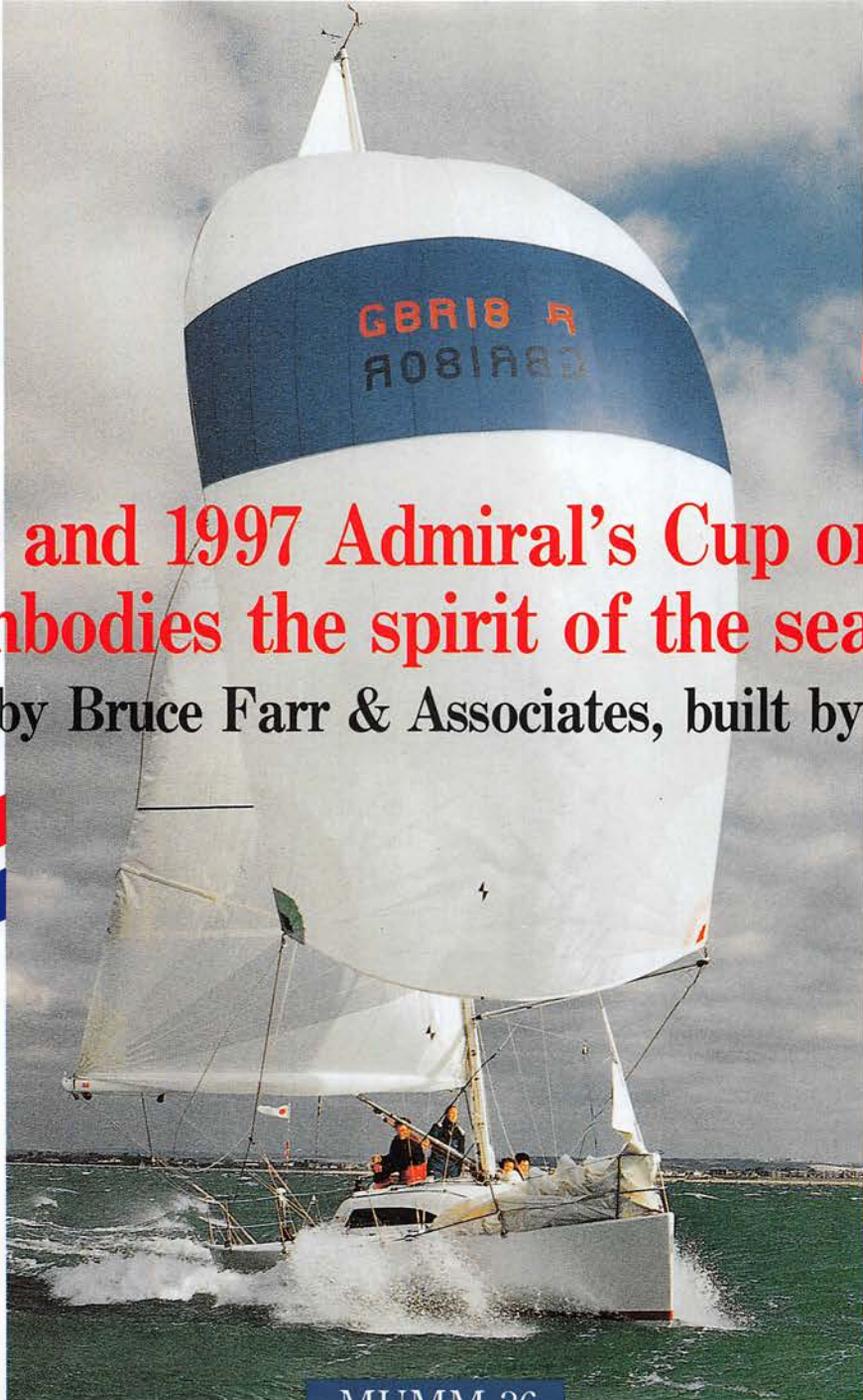


Offshore 224

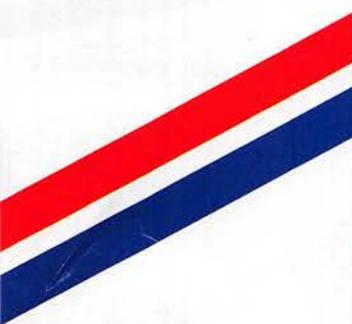
MAY 1994 5月号



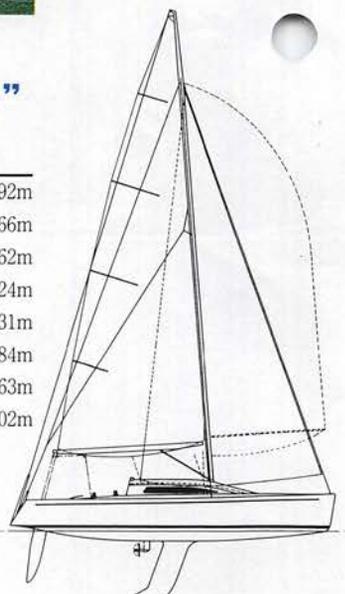
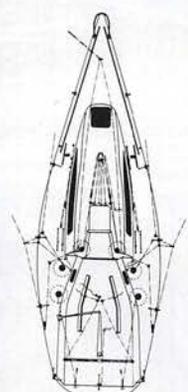


The 1995 and 1997 Admiral's Cup one-design embodies the spirit of the sea...

Designed by Bruce Farr & Associates, built by *bénéteau*.



MUMM 36



ハイパフォーマンス! “オフショア・ワンデザイン”

オフショアレースに長くその歴史を刻んだI.O.R.から、I.M.S.レーシングへと移行しつつある潮流の中で、時代の先鋭艇“マム36”は、R.O.R.C.よりアドミラルズカップのワンデザインクラスに採択されました。スポンサーの「シャンペーン・マム」は、サザンクロスカップ、エアーニュージールランド・レガッタ、ケンウッドカップ、コルムカップと転戦するワールドカップ・シリーズを開催中です。日本のレーサーに、このベネトウ“マム36”をワールドプライスにてお届けしているのは、私達ファーストマリンです。

SPECIFICATION

L.O.A. :	10.92m
Waterline length :	9.66m
Max Beam :	3.62m
Draft :	2.24m
I :	13.31m
J :	3.84m
P :	13.63m
E :	5.02m
Displacement :	3700Kgs approx.
Ballast :	1590Kgs approx.
GPH IMS 93 :	590-595sec/mile approx.

世界で最も愛されているヨット、ベネトウ。フランスから。



日本総輸入販売元 ファーストマリン

神奈川県三浦郡葉山町一色370 TEL.0468(76)1771 FAX.0468(76)1044
大阪事務所 / 大阪市西区新町1-17-8ハイネス新町公園503 TEL.06(532)9211

会長代行就任にあたって

日本外洋帆走協会 会長代行 並木茂士



このたび、はからずも会長代行に就任することになりました。NORC創設以来、私自身NORCとは常に深いつながりを持って来ており、その歴史のほとんどを知っている者の一人と自負をしていますが、その重い責任を考えた時、身の引きしめる思いを新たにしております。誠に微力ではありますが出来得る限りの力を傾注し職責を果したいと考えております。

私はこれまで本部理事であると同時に関東支部長としてその職に在りました。ご承知のとおり関東支部は全会員の過半数を超える大所帯であります。当然のことながら長年の問題が山積しております。私はご批判は覚悟の上、あらゆる機会をとらえそれらの解決のための改革を叫び支部のより良き自立を促し若手の登用をはかり、組織の強化を進め機能的な支部運営に腐心して参りました。おかげ様にてその間、才気あふれる各委員会のスタッフにも恵まれ、昨今では目指す改革の方向性が示され

はじめております。会長代行就任にあたり私はこの貴重な経験を糧として今後、会員の皆様が望む“NORC作り”に邁進したいと考えております。

今、NORCはなにをなすべきなのか？ どのような機能を持つべきなのか？ 本部とは支部とは？ 与えられた時間の中でその全てを解明することはとても困難ですが、その手がかりとなる環境を作ること、そしてそれを支える体制を作ることが私に課せられたテーマではないかと認識しております。ヨットを心から楽しめるためのNORCではなくてはなりません。財政の問題、行政との問題、そして社会との良好な関係を維持するための安全確保の問題など真のナショナルオーソリティをめざし、諸問題に対しても今まで以上に積極的に取り組んで行きたいと思っております。

簡単ではありますが皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

第128回理事会議事録 要旨

- 1 日時
平成6年2月19日(土) 1300~1420
- 2 場所
東京都港区新橋1-18-1
航空会館 601号室
- 3 出席者
理事30名中 出席28名
- 4 議題
 - (1) 1993年度事業報告案及び収支決算報告案
 - (2) 1994年度事業計画案及び収支予算案
 - (3) 新入会員の承認及び会員・登録艇の現状報告
 - (4) 1993年度会費滞納者(除名予定者)について
 - (5) 支部及び専門委員会報告
 - (6) その他
- 5 議題(1) 1993年度事業報告及び収支決算報告案について

久保常務理事から、資料に基づきレース事業、国際交流事業及びグアムレース関連の事故対策協力金、海難審判、賠償請求裁判の

問題、構造改革問題、日本船舶振興会への補助金交付申請状況等主として総務委員会の事業を中心とした事業の主要報告があり、児玉財務委員長から、収支決算について資料により概要次の報告があった。

概況

93年度の本部収支は、前年度の事故対策関連支出による借入金の財政負担を事故対策協力金を通じて軽減するという課題を重点として執行された。加えて各事業の予算削減をお願いし厳しい資金繰りを行った。その結果、経常収入と経常支出はほぼバランスし、財政面の危機的状況は脱している状況である。ただし、一方で事故訴訟費用など困難な課題が山積しており、引続き会員各位の財政面に対するご協力を期待するものである。

経常収支が正常になってきているとはいえ、財政基盤はまだまだ脆弱であり今後の財政は引続き気の抜けない運営になる見込みである。

次いで、横山監事から、2月5日NORCにおいて監査した結果は、会計報告書の内容は真実かつ適法正確で、理事の業務執行は法令

及び定款に違反する事実のないことを認めました。との監査報告があった。

議題(2) 1994年度事業計画及び収支予算案について

久保常務理事から、資料に基づきレース事業、国際交流事業及び「たか」賠償請求裁判、日本船舶振興会補助事業等一般事業について説明があり、児玉財務委員長から、収支予算について資料により概要次の説明があった。

94年度予算案は、93年度予算編成の際代議員会で議決をいただいた財政再建計画に基づく2年目の予算として編成されている。従って収入の伸びは若干にとどめ、一方各委員会事業費は極力絞らせていただいている。しかし、その後の事故訴訟に関連し大幅な費用負担が予測されるため、理事会で承認をいただいた臨時会費の徴収をもってその補填に当たりたいとするものである。経常収支は健全な状態にあるとはいえ返済金を相当額抱えた資金繰りはなお厳しいものがあり、そのため臨時会費と訴訟費用の差額をも事故関連資金の収支改善に使用される性格を持たざるを得ない

状況にある。

議題(3) 新入会員の承認及び会員・登録艇の現状報告について

久保常務理事から、資料に基づき昨年12月から本年1月までの間の新入会員は35名で、会員合計は4,931名となる旨の説明があり、全員の入会を承認した。ついで、登録艇について資料による説明があった。

議題(4) 1993年度会費滞納者(除名予定者)について

久保常務理事から、資料別紙5の名簿のうち、名簿作成後会費を納入された3名については、名簿から削除していただきたいと氏名を読み上げた。未納者は415名である旨、また除名手続きは従来どおりの猶予期間をおこなう。との説明があり承認された。

議題(5) 支部及び専門委員会報告について

「たか」損害賠償請求裁判報告

大儀見裁判対策委員長から、大要次の報告があった。

賠償請求裁判については、昨年10月、「たか」遺族の高瀬、橋本、武市3家族6氏から、「たか」オーナーの遺族水川氏、NORC及び国に対し2億3484万4832円を訴訟価額とする損害賠償請求訴訟があった。

原告らは、水川氏に対して、「たか」の長さ

を偽装し本来備えるべき備品を積んでいなかったこと、普通船舶に備え付けておくべき救命設備を設置せず小型船舶に備え付けておくべき救命設備しか設置しておかなかったこと、乗組員がリタイアを提案したがレースを続行したこと、NORCに対して、荒天下レースを続行したこと、イーバブ説明書が誤解を生む説明であったこと、国に対して、海上保安庁、海上自衛隊の捜索に空白区域を生んだこと、捜索上効果のないレーダー反射板を法定備品としたこと、等にそれぞれ責任があるとしている。

NORCでは、「たか」裁判対策委員会を設置、3名の弁護士を依頼し対応している。基本方針は理事会承認に基づき、NORCの総力を挙げて全面的に争う、こととしている。弁護士費用等は後ほど代議員会に提案されるが、臨時会費として結審までの間毎年会員から徴収することが理事会で決定されている。

前回の裁判で注目されるのは、海上保安庁弁護士団が提出したなかで、海上保安庁は国際外洋レースについてはレースの中止勧告をする法的権限はない、従ってNORCに対し中止勧告をした事実はない中止の検討を要請したものである。との主張を展開していることである。

●都築理事

臨時会費の特別会員8,000円正会員2,000円の割り振りは決定されているのか。との質問があり

●大儀見委員長から、8,000円、2,000円の区分けは理事会で決定されている。会費の件は代議員会マターであるので理事会から代議員会へ提案される旨、

●並木理事から、1人当たり特別会員8,000円、正会員2,000円分を本部へ納入することとなる。方法は各支部に委任されている旨、発言があった。

●石原会長から、裁判には、NORCの総力を挙げて対応しよう、との発言があった。

ナショナルジャッジ認定の件

石井ルール委員長から、ナショナルジャッジ13名の新規申請があり、資格審査委員会において審議した結果適格と認められたので、承認をいただきたい、また、更新申請については審査委員会に委任願いたい、旨提案があり、石原議長が諮らたところ、異議なく承認された。

環太平洋ヨットレースの現状報告

松木実行委員長から、大阪府企画による関西新空港開港記念のこのレースは準備進行中で、エントリーは最終的には135隻程度が予測される旨報告があり、財政状況の説明があった。

●石原議長から、本件について諮られ、了承された。

第16回代議員会議事録 要旨

1 日時

平成6年2月19日(土) 1440~1610

2 場所

東京都港区新橋1-18-1
航空会館 603号室

3 出席者

代議員164名中出席88名(うち委任状62名)

4 議題

- (1) グラムレース関連の賠償請求裁判報告
- (2) 1993年度事業報告及び収支決算報告
- (3) 1994年度事業計画及び収支予算
- (4) 1994年~1995年度担当の理事・監事の選任
- (5) 1993年度会費滞納者(除名予定者)について
- (6) その他

5 議題(1) グラムレース関連の賠償請求裁判報告について

大儀見裁判対策委員長から、大要次の報告があった。

海難審判については、来月結審の予定である。

賠償請求裁判については、昨年10月、「たか」遺族の高瀬、橋本、武市3家族6氏から、「たか」オーナーの遺族水川氏、NORC及び国に対し2億3484万4832円を訴訟価額とする損害賠償請求訴訟があった。

原告らは、水川氏に対して、「たか」の長さを偽装し本来備えるべき備品を積んでいなかったこと、普通船舶に備え付けておくべき救命設備を設置せず小型船舶に備え付けておくべき救命設備しか設置しておかなかったこと、乗組員がリタイアを提案したがレースを続行したこと、NORCに対して、荒天下レースを続行したこと、イーバブ説明書が誤解を生む

説明であったこと、国に対して、海上保安庁、海上自衛隊の捜索に空白区域を生んだこと、捜索上効果のないレーダー反射板を法定備品としたこと、等にそれぞれ責任があるとしている。

NORCでは、「たか」裁判対策委員会を設置、3名の弁護士を依頼し対応している。基本方針はNORCの総力を挙げて全面的に争う、示談策はとらない、こととしている。弁護士費用等は後ほど提案されるが、臨時会費として結審までの間毎年会員から徴収することが理事会で決定されている。

前回の裁判で、海上保安庁代理人から、海上保安庁は国際外洋レースについてはレース中止勧告の権限はない、今回はNORCに対し中止を打診したものである。と申し立てをしている。

議題(2) 1993年度事業報告及び収支決算報告について

久保常務理事から、資料に基づきレース事業等各事業及び各委員会の活動状況の概要報告があり、次の質問回答があった。

○高田代議員

構造改革委員会のテーマのうち組織の改善はどうなっているのか。

●大儀見構造改革委員

構造改革委員会で審議されていた規約等の見直し、本部は法人業務を主とし支部はクラブ活動センター業務を主とする本部支部業務の明確化、本部関東支部事務局の分離等は関東支部に設置された9310委員会の審議に吸収されている。

○清田代議員

9310委員会と本部との結びつき、具体的な本部業務の具現化を示してもらいたい。

●石原会長

本部支部機能の明確化、本部支部事務局長職の設置等事務局の分離は非常に結構なことで、このような機能的な体制を作ること構造改革の一段階としてみてもらいたい。ただ今の発言要旨を構造改革の議題にいれて推進していきたい。

○高田代議員

本部は法人業務を推進するというのであるのに、クルージング委員会を設けることは主旨に逆行すると思うかいかか。

●小林副会長

NORCの中で60~70%は占めていると思うブルーウォーター派の人たちにヨットを楽しんでもらいたい、具体的な企画はまだないが各支部を横断して会員メリットを持ってもらいたい、というのが主旨である。

●石原会長

将来、NORCがクルージング情報を全国のヨット界に提供するように発展する可能性もあると思う、本部業務となろう。

○高田代議員

構造改革委員会とマッチして進めてほしい。委員会はあがるが事業はないということにならないようにしてほしい。

●石原会長

注文があったら各委員会に提案を申し込んでほしい、お願いします。

次いで児玉財務委員長から収支決算について資料により大要次の報告があった。

93年度の本部収支は、前年度の事故対策関連支出による借入金の財政負担を事故対策協力金を通じて軽減するという課題を重点として執行された。加えて各事業の予算削減をお願いし厳しい資金繰りを行った。その結果、会費収入、登録収入、事業費支出等の経常の

収入支出はほぼバランスし、財政面の危機的状況は脱している状況である。ただし、一方で事故訴訟費用の必要性が発生し、新たに関東支部基金から緊急に1,000万円の借入れを行った。引続き会員各位の財政面に対するご協力を期待するものである。

次いで、審議に移り次の質問回答があった。

○清田代議員

収支が改善された原因は何か。

●児玉財務委員長

事故対策協力金9,316千円を拠出していただいたこと、特別事業が93年度はなかったこと、環太平洋レース実行委員会から業務委託費480万円の収入があったこと等である。しかし会報の広告収入は減収となっておりまだまだ厳しい状況である。

○高田代議員

鳥羽レースは、本部レースから東海・関東の支部レースへ移管してもよいと思っている。収入の見込みはどうかか。

●児玉財務委員長

93年度については予算どおり執行してもらった。94年度は、沖縄レースと連動して考えているので支出について充分ご考慮いただきたい。

●都築理事

63年度は、スタート担当の東海支部から本部へ約350万円を返還した。その中から関東支部が担当したフィニッシュ関係費用が支出されたこととなる。

○清田代議員

本部主催レースは、本部が費用面も完全に掌握して運用すべきである。

●都築理事

本部舩走委員会が主体となって運営している。鳥羽レースは会員のボランティア活動による手作りレースであり、スポンサーは付けないというのが出発点である。

●石原会長

NORCのポリシーの問題なので、今後の課題として担当委員会へ回してもらいたい。

議題(3)1994年度事業計画及び収支予算について

久保常務理事から、事業計画について資料に基づき、レース事業、国際交流事業、一般事業等の説明があり、次いで児玉財務委員長から、収支予算について資料により大要次の説明があった。

始めに、事業補助金については、日本船舶振興会へ資料のとおり申請したが現時点では0査定の内示を受けている。予算は補助金を加えずに組んである。

93年度同様の財政運営を継続したい。これ

も早急に返済を実現し余裕をもった事業運営ができるようにするための過程として、会員、担当委員各位のご協力のご理解をいただきたい。

石原議長から、関連である臨時会費の件の審議をお願いしてはどうか、との発言があり、児玉財務委員長から、臨時会費の理事会原案は、特別会員8千円、正会員2千円、予算額では1500万円を各支部へ按分する。支部内の徴収方法は支部に委任する、というものである。この件についてご審議をお願いする。旨提案があった。

大儀見副会長から、第127理事会で決定された臨時会費の件は、名称・たか裁判対策臨時会費、徴収期間・裁判が結審するまでの間、会費の額・毎年、特別会員8,000円正会員2,000円とする、徴収方法・各支部の定めるところによる。というものであり、臨時会費の徴収に関しては定款第37条第2項の規定により代議員会のマターであるのでこの第16回代議員会に提案されたものである。旨説明があった。

各代議員から次の質問提案があり回答された。

○高田代議員

臨時会費は、別個の形で予算編成し決算してほしい。また残金がでた場合は本部会計に入れなくて、何らかの基金的なものに積み立てる等の措置をとってもらいたい。

●児玉財務委員長

返済計画を履行したいので、残金があれば明確にした上で本部会計にいれたい。

○松非常務支部長

クルージング委員会の活動が活発になれば、会員減か減るのではないか。また、このような臨時支出を考慮して積み立て制度を計画してはどうか。

●石原会長・児玉財務委員長

裁判を想定しての基金はどうであろうか。主催者保険が組めそうなので調査中である。保険会社にNORCの要望を伝え結果を改めてご報告する。

○平田代議員

会友艇制度を設けたために会員が増えないと言えないこともないのではないかと。

○高田代議員

関東支部では9310委員会を発足させ構造改革問題を審議しているが、人事については選挙を前提としている。NORC選挙規則の見直しを考えてもらいたい。

石原議長から、94年度事業計画、収支予算について諮られ承認された。

石原議長から、理事会提案の臨時会費の

件について諮られ、原案どおり承認された。

議題(4) 1994年～1995年度担当の理事・監事の選任について

久保常務理事から、資料に基づき第128回理事会で承認された理事監事候補者氏名(本議事録に別紙として添付)を読み上げた。

石原議長から、候補者について諮られ、名簿のとおり承認、理事監事が選任された。

議題(5) 1993年度会費滞納者(除名予定者)について

久保常務理事から、資料のうち名簿作成後会費を納入された3名については名簿から削除していただきたい旨氏名を読み上げ、除名については従来どおり猶予期間をおいた後手続きをとることとする。との説明があり、承認された。

議題(6) その他

児玉総務委員から、第128回理事会で審議さ

れた、新入会員の承認、環太平洋レースの現状、ナショナルジャッジの承認等の議案について報告があった。

また、NORC会員向けのクレジットカード発行について、スポーツ共済保険の加入、会費納入等の会員メリットの拡大、会員証作成費の削減、会費収納工数の削減等の財政貢献、等相当のメリットが見込まれる。旨の説明があり、企画の推進について了承された。

第129回理事会議事録 要旨

1 日時

平成6年2月19日(土) 1615～1645

2 場所

東京都港区新橋1-18-1
航空会館 601号室

3 出席者

理事30名中 出席19名

4 議題

- (1) 主要役員の選任
- (2) その他

5 議題(1) 主要役員の選任について

児玉総務委員から、会長の選任から始めた、との発言があり、

石原理事から大要次の所信表明があった。

私、永らく会長をやってきましたが、今期は勇退させてもらいたいとNORC幹部の何人かに話をしていました。しかし次期会長について種々異論があるのでもう1期やって欲しいとのことで、引き受けましたが、ものには限界があるし、本質的な問題も出てきていることもあり、新執行部でNORCを再建し盛り立てて行く時期にきていると思っています。

ただ、「たか」訴訟問題、財政問題等不測の事態が起っています。財政については好転の兆しは見えてきていますが、NORCの総力を挙げてこれらに対応して行かなければならないときにあたり、人事を一新した方が良いと思います。

私は、運輸省と公益法人であるNORCとの関係を踏まえ、現執行部が勇退し新しい配置

で行こうとするとき、トップの会長には斬新な人が必要であると考え各界に色々相談しました結果、運輸省と一緒に仕事をし、かつ人望の厚い、戸田邦司氏に後任を託すのが一番良いとの結論に達しました。戸田さんからは少しオーバーラップさせてもらいたいとの返事をいただきましたが、戸田さんに会長をやってもらいたい。そして、私と大儀見副会長は勇退し、副会長は、並木関東支部長にやっていただき、小林副会長には暫く留任してもらいその後内海支部にお願いするということにしたい。専務理事については、清水氏が入院中で職務執行ができないので、児玉総務委員に専務理事代行をやっていただきたい。他理事の担当職務については、新執行部で決めていただきたい。理事諸兄のご協力をお願いします。

*戸田理事から次の発言があった。

私は、NORCの運営内容をよく把握していない。無任所理事なら差し支えないとは申しましたが会長と言われても即諾はできない。1期でも石原さんにやっていただくのが筋だと思う。

○石原理事

新体制で発足した方がいいと思います。大儀見さんも随分苦労されましたが、NORCの節目の時期であり、会長、副会長共に交代するのがベストだと思います。

○大儀見理事

NORCは、構造改革、運輸省の指導によ

る公益法人業務の推進等新組織を明確にしなくてはならない大きな転機にきている。NORCは、構造改革、体質改善、ナショナル・オーソリティーの問題等事務局体制より執行部体制に対する会員の声に充分応えていない、大きく脱皮してはならない。

○平松顧問会議長

石原さんはNORCの顔であったのに、急に退陣されるとは、このような重大な問題こそ、顧問会に諮問という形で皆さんの意見を聞かれたらどうであろうか。

○石原理事

総会も控えているし、この理事会で新執行部を決めてもらえないだろうか。

○小林理事

戸田理事の会長就任は賛成である。戸田理事の承諾はどうであろうか。

○並木理事

石原理事がこれだけ言われるのだから、機構改革を踏まえて推進していこうではありませんか。

○石原理事

新会長を迎えて拍手をいただきたい。

● 拍手

石原議長から、各理事の担当及び専門委員長の案は事情を勘案して新執行部から提案して下さい。との提案がありました。

第38回総会議事録 要旨

1 日時

平成6年2月19日(土) 1650～1730

2 場所

東京都港区新橋1-18-1
航空会館 603号室

3 出席者

1409名(出席55名 委任状1354名)

4 議題

(1) グラムレース関連の賠償請求裁判報告

(2) 1993年度事業報告及び収支決算報告

(3) 1994年度事業計画及び収支予算報告

(4) 新理事・監事及び主要役員の選任報

告

(5) その他報告

5 議事

1650、清水専務理事入院欠席のため児玉総務委員の司会により開会。児玉総務委員から、議事運営の都合上、先ほどの第129回理事会での主要役員の選任で大きな変化があったのでその報告を最初の議題としたい、旨発言があり、了解のうえ議事に入った。

議題(4) 新理事・監事及び主要役員の選任報告

石原議長から、大要次の所信表明と報告があった。

私、この度会長を勇退することを決意し、先ほどの第129回理事会でその旨表明しました。

次期執行部は、私と大儀見副会長は勇退し、会長戸田氏、副会長は並木関東支部長にやっていただく、小林副会長には暫く留任してもらいその後内海支部に願ひすることにした。専務理事については、清水氏が入院中なので児玉総務委員に専務理事代行を願ひたい。他理事の担当職務については新執行部で決めていただきたい。

ということで最終的に同意願ひました。この新体制に皆さんのご支持を得て、新しい外洋帆走の歴史を作っていきましょう。ご報告を兼ねて願ひします。

ついで、諸氏から大要次の挨拶があった。

○新会長 戸田邦司氏

先ほど、理事会で石原会長から提案されましたが、私は、NORCにどんな問題があり、その運営方向はどこか、ということについて熟知していないので、暫く勉強をさせてもらって分に従って皆さんのお役に立てばと思ひ、無任所ならお引き受けしようと思ひしていました。本日の会長就任については、全く突然のことで心の準備もありませんが、皆さんの総意であるなら責任を逃れるわけにはいかないし、最終的に否とは言えないが若干の助走期間が必要であると思ひしております。皆さんのご支援を得られればお引受するのにやぶさかではありません。ご協力をお願いいたします。

○新副会長 並木茂士氏

皆さんお聞きのようにこのような体制になりました。関東支部長としての体験を踏まえて、新会長とともに新体制を推進していこうと思ひています。

○副会長 小林義彦氏

もう1期地方代表副会長ということでお引受しました。NORCの顔であった石原さんが退陣されることは残念なことです。後任新会長に戸田さんが選ばれたことは喜ばしいことであります。会員諸氏の意見を充分お聞きして、新体制を支えていきたいと思ひています。

○大儀見理事

構造改革、法人業務の推進、NA問題等今NORCは重大な局面を迎えています。この時期に戸田さんが会長を引き受けられたことは、非常に喜ばしいことで人心の一新を図るうえからも会を挙げて後押しをしていこうと思ひています。

児玉総務委員から、各理事の担当職務、専門委員長等を明示しなくてはならないが、大きな変化があったので、新体制のもとで再度案を練り直し、後刻ご通知することとしたい旨、発言がありました承された。

議題(1) グラムレース関連の賠償請求裁判報告

大儀見裁判対策委員長から、大要次の報告があった。

昨年10月、「たか」遺族の3家族6氏から、「たか」オーナーの遺族、NORC及び国に対し、2億3484万4832円を訴訟価格とする損害賠償請求訴訟があった。原告らは、NORCに対し、荒天下レースを続行したこと、イーバブ説明書が誤解を生む表現であったこと等に責任があるとしている。NORCでは、裁判対策委員会を設置、3名の弁護士とともに対応している。基本方針はNORCの総力を挙げて全面的に争い示談策は採らないこととしている。費用については、先ほどの代議員会で承認された「たか裁判対策臨時会費」として裁判が結審されるまでの間、毎年特別会員8,000円、正会員2,000円を徴収しこれに当てることと

している。

議題(2) 1993年度事業報告及び収支決算報告

久保常務理事から、資料に基づきレース事業等各事業の概要報告があり、児玉財務委員長から資料により大要次の報告があった。

93年度の本部収支は、前年度の事故対策関連支出による借入金の財政負担を事故対策協力金を通じて軽減するという課題を重点として執行された。加えて各事業の予算削減をお願いし厳しい資金繰りを行った。その結果、会費収入、登録収入、事業費支出等の経常の収入支出はほぼバランスし、財政面の危機的状況は脱している状況である。ただし、一方で事故訴訟費用の必要性が発生し、新たに関東支部基金から緊急に1,000万円の借入れを行った。引き続き会員各位の財政面に対するご協力を期待するものである。

議題(3) 1994年度事業計画及び収支予算報告

久保常務理事から、事業計画について資料に基づきレース事業、一般事業等の説明があり、次いで児玉財務委員長から、収支予算について資料により大要次の説明があった。

始めに、事業補助金については、日本船舶振興会へ資料のとおり申請したが現時点では0査定の内示を受けている。予算は補助金を加えずに組んである。93年度同様の財政運営を継続したい。これも早急に返済を実現し余裕をもった事業運営ができるようにするための過程として、会員、担当委員各位のご協力とご理解をいただきたい。

議題(5) その他報告

児玉総務委員から、本日の理事会、代議員会においては前記議題のほか、新入会員の承認、会費未納者の扱い、ナショナルジャッジの新規認定、環太平洋ヨットレースの進捗状況及び財政状況、会員証クレジットカードの導入等について審議された旨の報告があった。

第130回理事会議事録 要旨

1 日時

平成6年3月28日(月) 1830~2000

2 場所

東京都千代田区内幸町1-1-1
帝国ホテル本館513号室

3 出席者

理事30名中 出席27名

4 議題

- (1) 会長選出の経過について
- (2) 会長代行の信任

(3) 役員等役職選任

(4) その他

5 議事

児玉専務理事代行の司会で開会。議題審議に入る前に、並木理事の紹介により、前専務

理事故清水栄太郎氏長男、清水宏和氏より、先日の葬儀の際のNORCの対応に深甚な謝意が述べられた。戸田理事の発意により全員で黙禱を捧げ、故清水専務理事のご冥福をお祈りした。

前理事会で戸田理事が議長指名されていることから戸田理事が議長席に立ち発言、発言要旨は以下のとおりであった。

2月19日第129回理事会で決定されたNORC会長を引き受けるにあたり、その時点では私はまだ海上技術安全局長であり、退任後の理事就任についてはそれほど問題はないとの回答を得ていたが、会長就任ということは考えていなかったため、理事会決定後検討させていただいた結果、来年度予算運営等から考えて、会長就任は辞退させていただくこととなり、結果的にご迷惑をおかけした。本日は、これからの体制を検討していただきたい。従って、私が議長を務めることはできないので児玉氏に議長を願いたい。

以後、児玉専務理事代行が議長となって議事進行した。

議題(1) 会長代行の選出、信任について

児玉専務理事代行から、会長代行制度は定款には明記されていないが、かつて石原会長が運輸大臣に就任されている間、大儀見副会長が会長代行となった例がある。副会長の序列では、小林副会長が前任であるが在京でなく東海支部であるので、関東支部長の並木副会長が適任と考えた。また、早急に運輸省に報告する必要があったので書面で各理事のご意見を伺った。手続上不適当なところがあったので、改めて本日「次期会長は空席、会長代行を並木茂士氏にお願いしたい。(名誉会長は原案どおり石原慎太郎氏にお願いしたい。)」

議題(2) 役員等役職選任

並木会長代行から、役員等役職について審議をお願いしたいとして、役職案が提案された。

- 大儀見理事から、児玉専務理事に役職が集中しており、大変な労力となる。総務委員会に常時業務に対処できる数名の委員会を設け対応したらいかかか。との提案があり、
- 並木会長代行から、関東支部では7人委員会を設け、中心となって支部業務を運営している。このような委員会を設置したい。人選は会長代行、副会長、専務理事に一任願いたい、との提議があり了解された。

議題(3) その他

- ① 環太平洋ヨットレース運営についての意見書

児玉専務理事から、大要次の発言があった。

内海支部西宮・大阪・岡山・須磨各フリートキャプテンから秋田内海支部長あての「環太平洋ヨットレース運営に関する意見書」の写しがNORC会長及びNORC総務委員長へ送付されてきた。この文書の内容は、環太平洋ヨットレースの運営は、内海支部としては今まで説明を受けていないが、NORC本部が内海支部と関係なく秋田、松木理事に委嘱したものかどうか、もしそうであるならNORCが社団法人として主催を引き受けた以上社会的責任があり、内海支部としては相談を受ける立場にあったのではないかと、現在のレース準備状況の中で、専ら支部会員以外の人に委員等を委嘱していることについて、問題があるのではないかと、言うことを指摘し、成功裡にレースを終了させるため支部会員が納得できるような運営をしてもらいたい、と要請している。

私が調査した限りでは、組織としてNORCが受け、理事会では運営主管を、内海支部にお願いすることとなっている。

審議に移り

- 松木理事

レース運営の要請は、企画者の大阪府から秋田氏に来て、NORC理事会で承認、レース運営主催を承諾、詳細は担当者である副会長秋田理事と協議していただきたい、旨大阪府へ文書回答されている。レースの規模からみてダブルハンドを担当された人を主体に、支部事務長、支部帆走委員長等を含む人達で実行委員会を組織し準備に入った。その後、支部評議員会では秋田支部長から状況を報告協力要請をしている。

- 山村理事

秋田、松木理事は、支部会員に大きな負担を掛けたくないとの配慮からW・Hを担当した人達で準備を始めたのであろうが、本来なら支部が受けて足りないところをこれらの人達で埋めてゆくの筋だと思われる。支部会員は、重要なレースであるので成功させたいと思っているが底には今の状況でやって行けるのかの思いと、状況報告がないことが相俟って心配が高じてこの意

見書になったものと思う。4月にフリートキャプテンの会議があるので、正常化に努力できると思う。

- 並木会長代行

本理事会で、この件の審議をお願いしたのは、昨年来内海支部の会員から種々連絡があり、また当レースには約130隻ものエントリーがあることもあって、万一なんらかの事故があれば、内海支部としても責任が取れないのではないかと、言うことを懸念したからである。

- 大儀見理事

本部名義のレースを支部が主管する例は多い。この文書は、支部内の文書であり、時間はあまりないが先ず支部で解決すべき問題であろう。

支部の対応を確認してから理事会が、り上げて良いであろう。

- 石原理事

もし、事故があつたら重大なことになる。NORCが叱をかわさないよう明確に意志を疎通してもらいたい。

- 小林副会長

関西空港開港記念にヨットレースを実施することは、ヨット界にとって大きなイベントで秋田、松木理事の功績である。内海支部内で筋を通してから、他支部へ応援を求めると筋だと思ふ。早急に支部会員の協力応援を得る形を作してほしい。

- 宮坂理事

このレースはNORCが組織として内海支部に委託しているレースである。支部からの協力依頼は個人レベルでなく専門委員会に通してくれないと協力のしようがない。

- 並木会長代行

速やかに、本部執行部で今の討議を踏まえ審議した結果を、内海支部長に通知する。

- ② 沖繩レースの中止

宮坂帆走委員長から、第12回沖繩レースは、申込締切の3月25日を過ぎたが本日現在エントリーはなく、中止のやむなきに至った。2年後のレースの立て直しをどうするかクルージング委員会も含めて、関係委員会で検討する。旨報告があり、了承された。

グアムレース海難審判、判決される

〈海難審判判決傍聴記〉

JGYR92訴訟対策委員会 服部 一良

行政側からの判断、海難審判（司法の刑事裁判に相当）の判決（司法での判決）が、1994年3月29日、0930から横浜地方海難審判庁で下され、審判官（司法でいう裁判官）は、〈マリンマリン〉と〈たか〉、双方の指定海難関係人（司法でいう被告）の所為は、「ともに本件発生の原因とならない」（司法での無罪）と判決しました。

判決の言渡しに要した時間、およそ1時間半。判決書はB5版で100頁を超える分厚いものでしたが、「本件発生の原因とならない」という結論に達した主文の概要は、次の通りです。

〈マリンマリン〉の場合

「キール取付部の船底はキールの荷重を分散しにくい構造で、しかも以前座礁したときに同取付部に生じた緩みが残っていて、長期に渡り同取付部に繰り返し荷重が動的荷重として働き、船底の外板の疲労が進行、荒天漂泊中に同外板が破壊、キールとともに脱落、転覆したことによって発生した。乗員に多数の死者行方不明者を生じたのは、キールが脱落するとは予測し難く、転覆も乗員の休息中に発生、不意を突かれ、また転覆の速度が速く、そのうえ船底の破口から船内の空気が急激に逃げ、浸水速度も激しかったことによる。

指定海難関係人は座礁歴を知らされておらず、キールを取り外して同取付部の点検をしなかったことについて、問題があったとは認められない」

〈たか〉の場合

「転覆は、荒天下を帆走中、突然、右舷ほぼ真横から船幅を超える高さの碎波を受け、瞬時に発生し倒立状態となった。乗員に多数の死者を生じたのは、レース主催者との間の通信連絡がとれず、艇は沈没、乗員はライフラフトで漂流していることをレース主催者は認知できず、捜索が早期に開始されなかったことによる。

指定海難関係人は運航の指揮に携わる立場になく、また、イーパープの操作についてはレーススタート前から取扱担当者に指名されていたわけではなく、転覆後にその取り扱いを指示され脱出時の混乱の中でこれを流出させたものであり、同人の所為について、とくに問題があったとは認められない」

主な箇所を抜粋すると、だいたい以上になります。

また判決は、

〈たか〉搭載のイーパープに関して、「出航前のイーパープの取り扱い模様については、佐野指定海難関係人の当廷における、イーパープの作動確認は行わなかった、取扱担当者も決めていなかった旨の供述により」「転覆後イーパープによる遭難信号の発信を試みたが、その取り扱いについてレーススタート前にイーパープの作動確認を行っていなかったため、電池の接続が切り離された状態で格納され、転覆時の混乱でイーパープが使われなまま脱出の際に流出させてしまったものである。前示の事情からレース主催者は、本船の乗組員が膨張式救命いかで漂流していることを認知できず、転覆後8日を経て、あらかじめ決めていた手順に

従って関係各機関に捜索を要請したものである。参加したヨットの中にはレーススタート前にイーパープの作動確認を行っていたものもあることから、本船がイーパープの作動確認を行って使用可能な状態で格納しておけばイーパープの遭難信号が発信されて転覆の事実を早期に認知することができ、捜索範囲は極く狭い範囲に絞られることから、救助される確率は極めて高かったものと考えられる」という判断を示しました。

さらに判決は、

レースの運営に関して、「事故発生防止上レース主催者がレースを中止すべきであったか否かの問題が生じているが、沿岸レースと違って外洋レースにおいては、レース中の各ヨットから遠く離れているレース主催者にとって、現場の気象、海象を的確に把握することは困難であること、レースに参加しているヨットはいつでもオーナーまたは船長の判断でレースを断念し危険を回避する行動がとれること、危険の程度は各ヨットによって相違があること、たとえレース主催者が中止指令を出しても各ヨットの置かれている状況が好転することにはならないことなどを考慮すると、長距離の外洋レースの途中で中止指令を出したとしても、レース中の各ヨットの海難防止に直接役立つとは考えにくい。前示の考え方は、外洋ヨットレースにおいては、ORCをはじめ国際的に慣行として定着しているものである。なお、雑誌KAZI平成6年1月号の、大荒れのミントラサット93途中でレース中止が決定される、と題する記事写によれば、平成5年9月にフランス共和国で行われた外洋レースにおいては、レース途中から荒天となってレースの中止が指令された旨を報じているが、それと同時にレース中止決定後において6隻が遭難していることも報じているのである」という判断も示しました。

〈判定後の記者会見〉

閉廷直後に、マスコミサイドの要望に沿った共同記者会見が行われ、〈マリンマリン〉と〈たか〉側に続いて、NORC側はコメントを発表、記者側からの取材を受けました。質問は「荒天の中のレース強行は問題が残る」「海外ではレースの途中で中止した例もある」「今後もスタート後の中止は絶対にしないのか」「今年、JCYRは催すのか」「審判庁は、旧来型と比較して最近の外洋艇の安全性を問題視している、対策は」「民事の原告側は、協会は責任を回避しているといっている」「今後も海上保安庁から中止の要請があっても、中止しないのか」「判決は、連絡がとれなかったのが事故を大きくした原因といっているが、対策は」「今回のような、安全確保のための重要な機器の事前の作動確認をしていなかったミスを防ぐために、レース参加艇のスタート前のチェックを厳重に行う必要があるのでは」などでした。

これらに対してNORC側は誠実に答えましたが、率直に言って、記者側の認識とNORC側の常識との隔たりを改めて知らされ、限られた時間で十分な理解が得られたとは思えません。今後もこの種の第三者からの素朴な疑問には、十分な配慮を重ねた積極的な対応が必要なることを痛感しました。以上

速報!

1994 コルム・ジャパンカップ 国際外洋ヨット選手権シリーズ

CORUM JAPAN CUP OFFSHORE SERIES 1994

2年ぶりの開催となった今回のジャパンカップ。久々のビックイベントということで参加選手、運営スタッフとも大いに気を吐き、ゴールデンウィークの相模湾に連日、白熱したレースが展開された。今回の参加はIORクラス9艇、IMSクラス18艇の計27艇。2年の月日が過ぎる間に、レースシーンはIORからIMSへと比重が移り、参加艇数を見てもすっかり勢力が逆転し、時代の流れを感じさせた。

レースは終始風に恵まれ、目の離せない展開となったが、結果、IORではレーティング修正でワントンクラスに参入したくラス(斜森保雄オーナー)がつねに他をリードして優勝。IMSでは、話題の新艇マム36<ウインド・ウォー>(諏訪禎男オーナー)が、全レースでトップ争いを演じて優勝した。

また、ミドルボート選手権とのダブルエントリーが認められたIMS-Cクラスには3艇が参加。<エスメラルダ>(植松真オーナー)が勝利をものにした。

※コルム・ジャパンカップについては次号で特集します。

写真/添畑 薫



IOR総合成績

順位	艇名	オーナー
1	KARASU	斜森保雄
2	ARE CAN BAY	後藤 裕
3	BLUE NOTE	五十井進

IMS-A総合成績

順位	艇名	オーナー
1	WIND WAR	諏訪禎男
2	FOUNDATION	藤巻正人
3	BE-ONE	合田耕平

IMS-C総合成績

順位	艇名	オーナー
1	ESMERALDA	植松 真
2	OCEANID	吉田真彦
3	CHOVE CHUVA	山本秀紀

1994初島卯月レース成績

■ 4月2日(土) 主催: NORC 関東支部 / 諸磯フリート

IOR Aクラス

参加艇数 4艇 TOTAL: 10

順位	SAIL No.	艇名	艇種	RATING (feet)	OWNER
1	5040	MATENROW	J/V 40	30.55	青山 紀
2	4033	ARE CAN BAY	FARR 40	30.60	後藤 裕
3	4272	PROPAGANDA	FARR 40	30.58	石渡 一夫
4	3660	青海波	X-1	30.81	清田 博

IOR Bクラス

参加艇数 6艇

順位	SAIL No.	艇名	艇種	RATING (feet)	OWNER
1	3002	SYLPHIDES 3	FARR 3/4	24.58	蒲谷 和行
2	3306	RIPPLE 3	YOK 31SR	23.25	碓 俊弘
3	2221	あずさ	YOK 33	24.60	杉村 直樹
4	2677	GREAT PEOPLE	YOK-31N	22.68	藤野 真子
RET	4218	NAPOLEON	YOK-31N	22.76	石田 和久
RET	4379	再見II	YOK 30R	23.23	高橋 伸博

IMS Aクラス

参加艇数 6艇 TOTAL: 14

順位	SAIL No.	艇名	艇種	RATING (feet)	OWNER
1	4722	DREAMPIC	FARR 44	556.9	高城 昌彦
2	4790	カリフォルニア ドリーマー	N/M 50	532.5	羽柴 宏昭
3	4241	G'NET	J-39	588.9	神部 静江
4	188	CONTESSA X	FRE 48	548.7	石原 慎太郎
5	4444	ROCINANTE9	BNT 53F5	538.6	大口 真司
6	4737	TURTLE V	ELT 12	559.8	増田 順一

IMS Bクラス

参加艇数 8艇

順位	SAIL No.	艇名	艇種	RATING (feet)	OWNER
1	4959	FOUNDATION	HKL-42	627.4	藤巻 正人
2	5070	写楽	N/M 35	612.5	熱田 二士行
3	3335	織姫	FRE-41	603.8	古川 保夫
4	1118	BONANZA V	ELT 935	626.3	吉田 豊
5	4401	KRYPTON	DHL 36DB	645.5	初鹿野幸生
6	4014	ALPHA	J-33	627.6	伊藤 彰男
DNC	1393	BLUE SHANGHAI	SWAN 36	659.4	坂田 修一
DNC	4821	ESMERALDA	TRIP36	627.3	植松 真

CR Aクラス

参加艇数 7艇 TOTAL: 12

順位	SAIL No.	艇名	艇種	RATING (feet)	OWNER
1	1465	MAUPITI	FRE-38	9.65	岩田 禎夫
2	3373	APHRODITE	FC CHAL	8.50	菅野 道
3	4600	雪風VI	FST 45F5	10.65	斉藤 昌邦
4	1771	潮路V	FST 41S5	9.30	池田 晴秋
5	4919	ZETA 12	T-301	8.05	高原 俊弥
RET	3555	OIDON	YAM 35	8.15	藤田 弘治
DNC	4968	SUPER ESCARGOT	YAM 31S	8.05	宇都木員夫

CR Bクラス

参加艇数 5艇

順位	SAIL No.	艇名	艇種	RATING (feet)	OWNER
1	3592	LAHAINA 5	SWING31	7.65	佐藤 文昭
2	4749	WISH 3	SWING 31	7.65	赤星 博之
3	5161	APPLE III	FST 310	7.50	菊地 浩二
RET	2967	HOLIDAY	YOK 29	6.90	馬目 徳男
RET	3531	陽焰	SWING 31	7.65	川久保史郎

第35回鳥羽パールレースへのお誘い

NORC本部帆走委員会

本年度、鳥羽パールレースは昨年off shore11月号でお知らせしたように、以下の要項で行ないます。ふるってご参加下さい。

なお、鳥羽における泊地に関する詳細につきましては、東京および東海支部での連絡会議で説明いたします。艇長もしくは代理人の方は必ず出席して下さい。また、本年は艇長会議後に安全セミナーを開催し、義務付けとなります。

スタート日時：

Aコース 7月29日(金) 12:00

Bコース 7月29日(金) 12:20

タイムリミット：7月31日(日) 18:00

コース

Aコース 鳥羽⇒神津島(反時計)

⇒三崎港(180M)

Bコース 鳥羽⇒三崎港(150M)

参加資格：

〈Aコース〉

1) IORもしくはJORの有効なレーティングを所有している艇。

2) IMSの有効なレーティングを所有している艇。

〈Bコース〉

1) 有効なNORCクルーザーレーティング(CR)を所有している艇

〈A、Bコース共通〉

1) NORC登録艇、または会友艇であり、艇長はNORCの会員であること。乗員は4人以上であること。また、1/2以上はNORCの会員であること。

2) ORC特別規定カテゴリーⅢ以上およびNORC-B以上の安全検査に合格している艇で、『鳥羽パールレース特別規定』としてライフフラットを搭載のこと。(船検定員の半数以上が乗れるもの)。

2)-2ただし、ORC特別規定カテゴリーⅢの10.61「船舶用無線送受信機」の項について、「通信手段 1)SSB、2)国際VHF、3)マリンVHF、4)アマチュア無線、5)船舶電話、のいずれかを搭載していること」(連絡会議で申告)とします。

*陸上の携帯電話は使用できません。

〈クルーザーレーティングのHSCについて〉

1) 下記の艇種等でCRクラスに参加する場合は、CRルール3.8によりハンディキャップを与えます。

ELT935(エリオット)、IMS950(ツボイ)、IMS10.3(ツボイ)、YR9.5IMS(YAMAHA)、NEWS IMS59.5(N/M) FST Class Challenge、J92、SWING31、SWING34

〈ハイテク素材艇〉

2)ハンディキャップをいくつにするか、また、艇種の見直しについては艇長会議までに行ないます。

3)IMSとCRの両方のレーティングを所有している艇は、Aコースで参加して下さい。

参加料：出艇料 1艇 6,000円
(申込締切までに納入して下さい)

乗員参加料 会員1名 2,000円

非会員および会費未納者 6,000円
15歳未満 2,000円

(出艇申告時に納入して下さい)

参加申込：7月1日(金)18:30までに所定の申込用紙に必要事項を記入し(東海支部へはハガキで)、出艇料を振り込んでNORCの本部またはNORC東海支部事務局にお申し込み下さい。

出艇申告：7月28日(日)10:00~14:30
(時間厳守)

於 鳥羽グランドホテル(4Fしんじゅ)

提出書類：A、Bコース共通

出艇申告書(2部)、会員証のコピー

「鳥羽パール特別規定」申告書(連絡会議で配布)

NORC安全検査証コピー

艇長会議：7月28日(日)15:30~16:30

於 鳥羽グランドホテル(4F三つ島)

安全セミナー：7月28日(日)16:30~17:00

於 鳥羽グランドホテル(4F三つ島)

連絡会議：〈東京〉7月8日(金)18:30~

於 国労会館 8Fホール

〈東海〉7月13日(日)18:30

於 東海会館 華寿殿

*必ずどちらかの連絡会に出席をお願いします。

第6回初島W-HAND YACHT RACEのお知らせ

主催：逗子マリーナヨットクラブ

6月25日(土)／午前6:00～スタート 逗子沖⇒初島(反時計廻り)⇒逗子沖

初島ダブルハンドレースは今年から早朝スタートになりました。クルー一選びから始まるこのレースですが、完走後の征服感と爽快感は格別のものがあるようです。このレースは勝利だけが目的ではなく、とか

く技術論が先行する世の中で忘れかけていた人間と自然との調和が、実はヨットの醍醐味なのだと分らせてくれるでしょう。

[参加資格]

参加艇：1. 有効なIOR、IMSおよびCRレーティングを所有している艇。
2. その他主催者が特に認める艇。(先着30艇)

参加費：¥20,000(参加費・記念品・2名のパーティー費などを含む)

乗員：乗員は2名で、初島廻航経験が3回以上または同等の経歴がある事。
デビュー1. IOR-DIV.: IORレーティング取得艇。

(DIV.): 2. IMS-DIV.: IMSレーティング取得艇

3. CR-A DIV: CRレーティング6.00~6.95Mの艇

4. CR-B DIV: CRレーティング7.00~7.80Mの艇

5. CR-C DIV: CRレーティング7.85M以上の艇

日程：6/25(土) AM6:00 クラス別スタート

6/27 AM10:00 表彰式、パーティー

主催：逗子マリーナヨットクラブ

参加申込書請求先：〒170 豊島区東池袋1-31-15 沼田歯科 初島Wハンドレース係 FAX 03-3982-1976 ハガキまたはファックスでお申込みください。

1994年度初島レースのお知らせ

主催：NORC関東支部 コース：小網代⇒初島(反時計)⇒小網代(48マイル)

担当：シーボニアフリースト 参加申込締切日：平成6年6月10日(金)

日時：平成6年6月18日(土) 艇長会議：平成6年6月17日(金) 西桜福祉会館 PM6:30~

江の島カップレースのお知らせ

主催：江の島ヨットクラブ

主管：江の島カップ実行委員会

日時：平成6年6月12日(日) 午前11:00スタート

コース：江の島沖～島帽子岩往復

参加資格：NORCの有効なクルーザーレーティング(CR)を有していること
(なお、有効なCRを有しない艇は、本レース委員会が指定したものを採用する)

参加申込方法：平成6年6月12日(日) 午前9:30~10:00

江の島湘南港 江の島ヨットクラブ(EYC)にて受付

参加費：1艇 3,000円(4名分のパーティー費含む、1名増すごとに500円)

連絡先：昼 0466-81-4431 夜 0466-22-4207 押小路 実弘

レース当日 0466-22-0261 江の島ヨットクラブ(EYC)

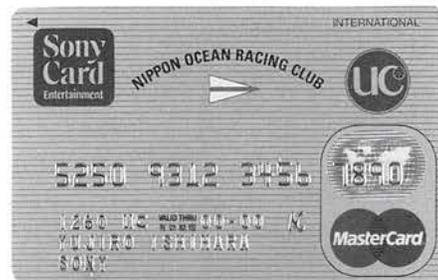
NORCメンバーズカード誕生

このたび、NORC会員証を兼ねた便利なクレジットカードが生まれました。

これは、(株)ソニーファイナンスインターナショナルと提携したもので、カードの表面がクレジットカード、裏面がNORC会員証として会員番号などが打ち込まれます。

カードは、UCならびに海外で利用できるマスターカードとして使える他、下記のような特典が用意されており、NORC年会費や各NORC主催レースのエントリー費なども自動引落されますので便利です。

カード年会費はNORCが一部負担しますので、レギュラーカードが無料、ゴールドカードが6,180円と、他のクレジットカードと比べて割安ですので、ご加入をおすすめします。



カード特徴

■従来のNORC資格証と同様の役目を持っています。

NORCメンバーズカード裏面には、協会の会員資格、会員番号、フリートコード、艇名が印字されていますので、いままで同様にNORC資格証としてそのままご利用いただけます。

■協会の皆様にメリットのある特典やご利用場面を増やしていきます。

1) 協会の年会費がカードご指定口座より自

動引落となり、ご送金の手間が省けます。

2) 各レース等の参加費もNORCメンバーズカードでご利用いただけます。

3) セーラーズ保険もカード口座から自動引落できます。

■充実したクレジットカード機能と多彩な特典を持っています。

1) UCやソニーカードエンタテインメントのサービス・特典が全てついています。

2) ソニーカードエンタテインメントUCカードとし

て、世界中で幅広くお使いいただけます。

3) セーラーズ保険やマリンショップの優待割引など、現在の資格証にはなかった特典が加わりました。

■カード年会費はレギュラーカード無料、ゴールドカード6,180円(税込)と大変お得になっています。

通常のカード年会費は、レギュラー1,287円、ゴールド10,300円(税込)です。差額は協会負担。

数々の安心保険サービス

〔海外旅行傷害保険サービス〕

ご入会后、自動的に海外旅行傷害保険をお付けします。海外での病気やケガはもちろん、カメラなどの携行品が盗まれた場合も、ご安心ください。レギュラーカードは最高1,500万円まで、ゴールドカードは最高5,000万円(いずれも死亡・後遺障害の場合)まで補償いたします。

*カード会員として登録された日の1ヵ月後の応当日以降に開始された旅行が対象となります。

〔NORCセーラーズ保険〕

NORCメンバーズカード会員だけが入会することができる、自動継続の大変便利な団体保険です。

1. NORCレース中(往復途中・宿泊旅行中を含む)のカード会員の傷害事故(最高2,000万円)、賠償責任事故(対人1億円・対物500万円)をワイドに補償します。
2. 東京海上を幹事会社とする損害保険会社20社と一括契約している〈スポーツ安全協会〉の引受だから、安心です。
3. 申込料(1,600円)はNORCメンバーズカードのご指定口座より自動振替します。翌年度からは自動継続のため、手続き不要です。

※第1期申込み〆切は'94年6月末日です。お早めにお申込みください。

●お問合せ先/NORC保険デスク
オフショアヨット
フリーダイヤル 0120-024-410

〔国内旅行傷害保険サービス〕

ゴールドカードを利用された場合、国内旅行傷害保険を死亡・後遺障害最高5,000万円までお付けします。

〔ショッピング補償保険〕

〈ソニープロダクツセキュリティ〉(レギュラーカード)

レギュラーカードでご購入いただいたソニー製品が、万が一、破損・盗難・火災などの偶然な事故に遭っても大丈夫。ご購入日から90日間、年間最高50万円まで補償いたします。

〈UCショッピング補償保険〉(ゴールドカード)

ゴールドカードで購入された商品の破損などによる損害を、購入日より90日間、年間最高300万円まで補償いたします(1事故1品免責1万円/盗難対象外)。

NORCマリン優待サービス

〔MARINE VANCE〕

横浜の桜木町にあるマリンショップ「マリンヴァンス」。マリン用品が、店頭および通信販売で5%OFFになります(一部、除外品もございます)。

●お問合せ先/TEL.045(681)0942

〔ARICA〕

東京・恵比寿にあるマリンショップ。店頭価格の10%OFFでご利用いただけます(一部、除外品もございます)。

●お問合せ先/TEL.03(3496)4641

〔TCO-15 (テイコ1号)〕

千葉県浦安市にあり、海からもご来店いただけるマリンショップです。店頭価格の10%OFFでご利用いただけます(一部、除外品もございます)。

●お問合せ先/TEL.0473(80)0481

マリン用品やマリナー施設の優待割引など、さらに今後ともNORCメンバーズカード会員の皆様との絆が深まるよう、充実した特典やご利用場面を拡げたい所存です。ご期待ください。

オリジナル優待サービス

〔ARAIリゾート〕

遠く佐渡ヶ島まで見渡せる、360度パノラマの眺望と、最長5kmの滑走距離を持つスキーゲレンデ。

夏は日本海・野尻湖まで30分、秋は紅葉等、四季を通して会員の皆様をお迎えします。

〔特典1〕宿泊料金が10%OFF!

ARAIリゾートでの宿泊は、「ザ・クラブ」または「ウエストウッズ三本木」。どちらのホテルも、10%OFFとなります。

〔特典2〕レンタルが20%OFF!

最新モデルをラインナップした各種レンタルが20%OFF。なお、ご会計は現金精算に限らせていただきます。

●お問合せ先/TEL.0255-70-1516

新潟県新井市両善寺1966

ARAIリゾート営業部

〔TOKYO PHILHARMONIC〕

東京フィル主催のコンサートチケットが5%OFFでお求めになれるほか、会員専用の特別シートをご用意しております。

*詳細は随時「OFF SHORE」でご案内いたします。

●お問合せ先/TEL.03(3256)9696

東京フィルハーモニー交響楽団

特別企画のご入会キャンペーン

■特典1. NAKASEN MARINE CATALOGプレゼント

マリンヴァンス(桜木町)より中村船具のカタログ「NAKASEN」(定価5,000円)を無料進呈いたします。尚、カタログはNORCメンバーズカードご入会先着1,500名様までとさせていただきます、カード到着後にご自宅へ自動的に発送いたします。



■特典2. 「ザ・クラブ」ご優待宿泊券プレゼント

今回お申込みいただいた方だけの特別企画です。ARAIリゾートの「ザ・クラブ」が20%OFFでご利用いただけるご優待宿泊券を無料でプレゼントします。

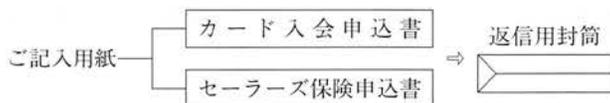
※8月末までにNORCメンバーズカードをお送りした際に、ご優待宿泊券を同封させていただきます。



お申込みにあたって

〈お申込み方法〉

以下の用紙をもれなくご記入・捺印のうえ、返信用封筒でソニーファイナンス宛にお申込みください。



※セーラーズ保険だけのお申込みはできません。必ずカード入会申込書と同時にご返送ください。

●ポイント

- ①カード入会申込書…NORCの会員資格(特別会員・正会員・準会員)と協会会員番号を忘れずにご記載ください。
- ②セーラーズ保険申込書…カード入会をお申込みいただいた方のみ、この保険にお申込みいただけます。なお、1994年6月30日分までが、同年7月15日からの第1期保険加入となります。

〈お申込資格〉

NORC会員の方に限ります。(ただし、会友の方、18歳未満の方は除きます。)

※ゴールドカードは原則として、年齢30歳以上、年収500万円以上で、勤続年数または営業年数(自営の場合)10年以上の方を対象とさせていただきます。

〈カード年会費〉

- ・レギュラーカード…無料
- ・ゴールドカード…6,180円(税込)

※通常のカード年会費は、レギュラー1,287円、ゴールド10,300円です。NORCメンバーズカードの場合、差額は協会が負担いたします。

〈お問合せ先〉

- ・社団法人日本外洋帆走協会(NORC) TEL.03-3504-1911
- ・株式会社ソニーファイナンスインターナショナル
フリーダイヤル 0120-555-288

団体ヨット保険アンケート結果

NORC保険デスク

94年度団体ヨット保険募集に合わせて、全支部の特別会員と会友の皆様（総数1,762名）にアンケートを実施しました。一方、関東地区（810名）では、私共から直接電話によるアンケート回答の聞きとりをさせていただきま

した。お忙しい時間に突然電話が入り、ご迷惑をおかけした点もあったかと存じます。ご協力いただきましたこと、ありがとうございました。

アンケートにつきましては、ご意見も多様でまとめることがむずかしいため、この誌上では数値結果による傾向の抜粋報告といたします。お寄せいただいたご意見は保険小委員会にて検討し、団体ヨット保険の内容に反映させるよう進める予定です。

〈アンケート用紙回収結果報告〉

A 回答人数 119人（回答率6.8%）

B 回答内容

1. ヨット保険事故について記入してください。

●いままでに保険金請求をしたことがありますか？・・・

はい	44(事故率37%)	
いいえ	73	
無回答	2	計.119

●前述回答「はい」の場合、それはどんな事故ですか？・・・

デスマスト	4	
座礁	11	
他船接触	8	
台風水災	8	
その他	13	
無回答	0	計.44

●そのときの保険会社の対応はどうか？・・・

満足	38	
不満足	2	
無回答	4	計.44

2. NORC団体ヨット保険について

①レーサープランは約8%割引、クルーザープランは約35%割引です。このプラン別引受形態についてご満足ですか？・・・

はい 67

いいえ 26
無回答 26 計.119

②船体事故時の自己負担金額は1事故10万円ですが、自己負担金額を100万円もしくは船体保険金額の10%のどちらか高い方に設定すると、約20%割引が考えられますが、このような引受を望まれますか？・・・

はい 13
いいえ 80
無回答 24
どちらとも言えない 2 計.119

③セールを補償する保険が必要ですか？・・・

はい 34
いいえ 66
無回答 16
どちらとも言えない 3 計.119

●セール100万円の損害を補償する保険として、実損50%補償で保険料5万円はどのように思われますか？・・・

高い 53
安い 16
無回答 49
どちらともいえない 1 計.119

④プロペラ・シャフト額を補償する保険が必要ですか？・・・

はい 55
いいえ 48
無回答 16 計.119

⑤ご自身の保管係留場所はどこですか？・・・

マリーナ 74
漁港 22
自主管理泊地 22
他 1
無回答 0 計.119

●保管場所の安全度をどう思いますか？・・・

安全である 93
心配な点もある 23
無回答 3 計.119

〈電話アンケート結果報告〉

A 回答人数 147人（回答率18%）

B 回答内容

1. ヨット保険の加入内容、保険会社はどこですか？

NORC団体保険 8

他社のヨット保険に加入 119

無保険 20

2. ヨット事故の有無とその事故内容をおきかしてください。

事故無し 31
事故有り 28 (事故率19%)

(事故の内容)

他艇との接触 11

デスマスト 6

座礁 2

ブームの破損 2

船底をこすった 1

スタクションが折れた 1

リグを曲げた 1

台風による全損 1

スライドハッチの破損 1

ハルヒットの損傷 1

エンジントラブル 1

無回答 88

3. ヨット保険でセールやプロペラシャフト類の補償は必要と考えますか？

必要 7

不要 8

無回答 132

2つのアンケート結果は、同じ質問内容もありますが、回答傾向が大きくちがいます。この理由としては、前者はNORC団体保険加入者が76%を占める意見であり、後者は81%がNORC団体保険以外の保険加入者の意見である点です。

まとめとして事故率（回答人数ベース）をみると、前者が37%、後者が19%です。

参考までに過去5年間のNORC団体ヨット保険の事故率を挙げます。

(契約件数ベース)

	レーサープラン	クルーザープラン	合計
89年度	19.2%	8.1%	10.4%
90	17.1%	6.9%	10.9%
91	14.9%	8.0%	10.1%
92	23.0%	8.1%	13.3%
93	20.2%	12.9%	16.3%
89-93	20.1%	9.6%	12.8%

新編集長のあいさつ

会報小委員会のご指名を受け、私こと市川和彦が新たに編集長に就任しました。この機会に誌面もA4版に、内容レイアウトも一新しました。新スタッフも意欲的です。新版表紙第1号は編集プレーンの一員でもある添畑薫氏によるジャパノカップの〈コラム J〉です。今後も迫力のあるシーンで表紙を飾りたいと思います。

お問合せは **フリーダイヤル:0120-024410** (オフショアヨット)
NORC保険デスク ☎101 東京都千代田区神田錦町1-9 天理ビル 東南興産株式会社 東京営業所

OFFSHORE

第224号 平成6年5月15日発行
 毎月1回15日発行
 昭和52年7月21日 第三郵便物認可
 1部定価300円(郵送料別)

発行 社団法人 日本外洋航海協会
 発行人 今岡又彦
 編集人 市川和彦
 東京都港区虎ノ門1-11-2(第2船船振興ビル5階)
 電話・東京03(3504)1911~3 〒105
 郵便振替番号2-21787
 印刷 株式会社気生堂印刷所

おわびと訂正

オフショア 1994、3・4月号
 P7 担当役員役取 欄
 誤 正
 大橋旦典 大橋且典
 和久井喜次郎 和久井喜治郎



オーストラリアの予感。

ヨット・モーターボート総合保険

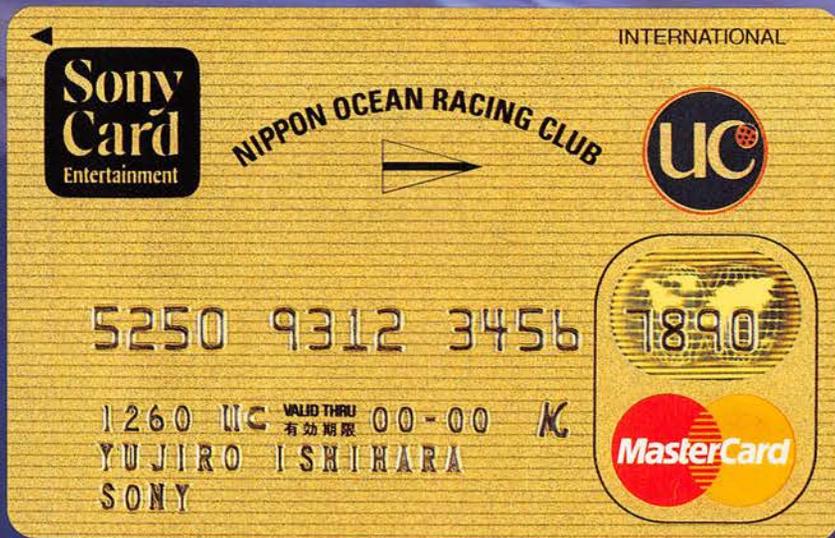
東京海上火災保険株式会社
住友海上火災保険株式会社

お問合せ先：会員代理店またはNORC保険デスク(フリーダイヤル0120-024-410)

新カード、出航。



NORCメンバーズカード[レギュラー]



NORCメンバーズカード[ゴールド]

あなたのお手持ちのNORC会員証が、もっと楽しく、便利なクレジットカードに生まれ変わります。マリンスポーツを愛するNORCの会員の方々にグッド・ニュース。従来の会員証が、楽しさと便利さもりだくさんのクレジットカードになります。NORCメンバーズカードならではのさまざまな特典を活かして、毎日をもっと多彩にしませんか。

●お問い合わせ先: 社団法人 日本外洋帆走協会(NORC) TEL.03-3504-1911
株式会社ソニーファイナンスインターナショナル フリーダイヤル:0120-555-288

*「NORCメンバーズカード」は、株式会社ソニーファイナンスインターナショナルとユーシーカード株式会社との提携により発行されるカードです。



カード裏面[レギュラー]